

2022年2月2日に開催されましたダスキン健康保険組合第133回組合会において、2022年(令和4年)度予算および事業計画が議決・承認されましたので、その概要をお知らせします。

健康保険

前期高齢者納付金や医療費の増加に対応するため積立金を取り崩し、不足分を保険料率の引き上げで補います

保険料率を9.8%から10.1%に引き上げ

2022年度予算は経常収支▲5億6,221万円で、不足に対し積立金を充当しますが、それだけでは足りず、保険料率を引き上げざるを得ない状況となりました。経常赤字の主な要因は、納付金の増加と保険給付費(医療費)の増加です。皆様にはご負担が増すこととなりますが、以下の内容をご理解いただき、ご協力をお願いいたします。

◆納付金の増加

納付金(前期高齢者納付金+後期高齢者支援金)は2021年度より減る見込み(14%減)ではありますが、2020年度以前に比べると大幅に増えています(2020年度実績比122%)。全国的には前期高齢者(65歳以上75歳未満)は国民健康保険(市町村国保)への加入が多く、医療費の負担は国民健康保険に偏るため、この不均衡の解消を目的に、各保険者の前期高齢者の加入率に応じて負担を調整するしくみがとられています(加入率が平均より少ない保険者は差分を負担する)。この計算の際、その保険者に属する前期高齢者の1人当たりの医療費が積算されます。当組合の最近の加入率に大きな変動はありませんが、1人当たりの医療費が大きく増加しており、これに伴い納付金の額が大幅に増加しています。そのため、前期高齢者の医療費適正化が急務です。ご本人のみならず、職場ぐるみでの積極的な健康管理をお願いします。

◆保険給付費(医療費)の増加

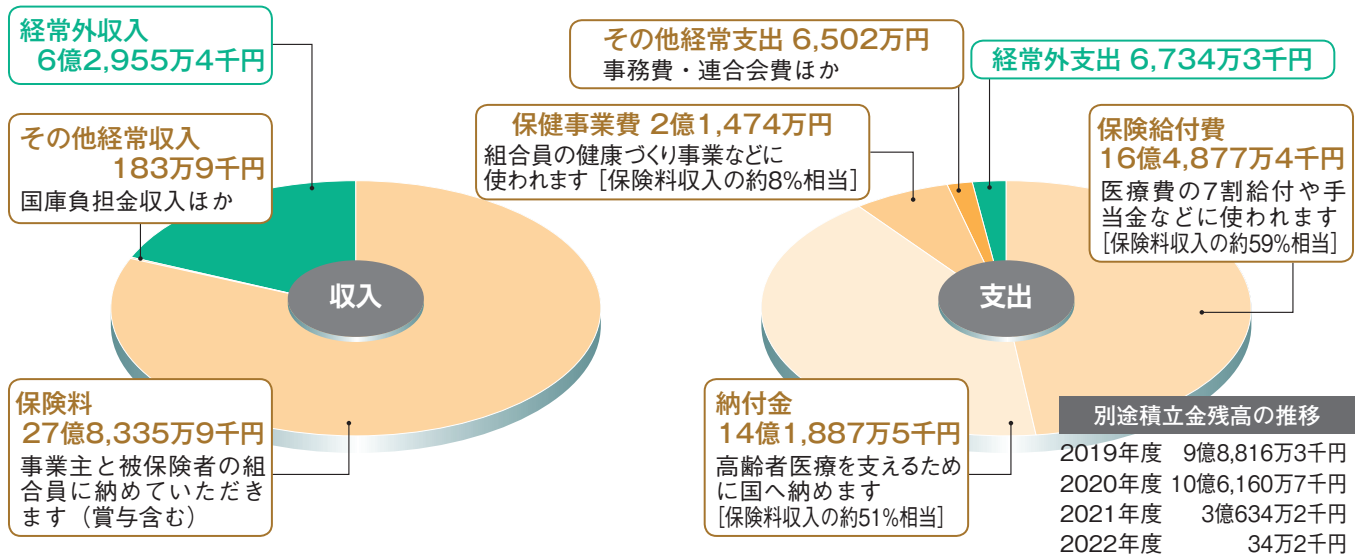
2021年度の保険給付費の前年度比は113%、給付費に占める上位2疾病は、がんと循環器系疾患(血液を全身に循環させる臓器や血管の病気)です。前期高齢者ではこの2疾病の割合がさらに増加しています。これらを含む生活習慣病対策が肝要です。

◆重症化する前に対策を

再雇用の増加や定年延長などにより、前期高齢者の方、またこれから前期高齢者となる方の健康管理がますます重要となる時代がすでに到来しています。若い世代のうちから将来を見据えた健康意識を持つことも必要となります。ご自身の健康に十分留意いただき、特定保健指導や生活習慣改善プログラムの対象となった場合は、重症化予防のため必ずご参加いただきますようお願いいたします。

予算の基礎数値 (年間平均)	
被保険者数	6,845人
平均標準報酬月額	269,674円
保険料率	10.1%
事業主	5.05%
被保険者	5.05%

経常収入支出差引額 ▲5億6,221万1千円



介護保険

保険料率は1.85%に据え置き

2022年度の介護保険料率は据え置き1.85%。介護納付金は3億4,626万4千円(前年度予算比2,550万円減)を見込んで予算編成しました。

科目	収入予算額
介護保険収入	3億8,700万5千円
繰越金	4,741万6千円
雑収入等	2千円
収入合計	4億3,442万3千円

科目	支出予算額
介護納付金	3億4,626万4千円
介護保険料還付金	1万5千円
積立金	1千円
一般勘定繰入	1千円
予備費	8,814万2千円
支出合計	4億3,442万3千円

予算の基礎数値 (年間平均)	
第2号被保険者数たる被保険者数	4,575人
平均標準報酬月額	300,000円
保険料率	1.85%
事業主	0.925%
被保険者	0.925%

※介護保険料は40歳以上65歳未満の被保険者から徴収されます。